

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：34205

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23700705

研究課題名(和文) 新任体育教師における心的成長プロセスのモデル構築に関する質的研究

研究課題名(英文) Qualitative Analysis on Model Construction in Mental Growth Process in New Physical Education Teachers'

研究代表者

南島 永衣子(MINAMISHIMA, Eiko)

びわこ成蹊スポーツ大学・スポーツ学部・講師

研究者番号：70455062

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：研究の目的は、新任体育教師の心的成長プロセスのモデルを構築することであった。その結果、新任体育教師は、初期の段階では理想と現実のギャップに気づき、初任研や学校現場の他の教員との関わりの中からそのギャップを調整していた。中盤の段階では、学校内での自身の立場や生徒、保護者、更には地域住民から求められていることに応えるために試行錯誤を繰り返していた。最終の段階では、指導力の向上や生徒との関係の向上などから次学年に向け、気持ちの整理を図るという心的プロセスを経ていたという知見を導き出した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is model construction in mental growth process of new physical education teachers.

As the result, (1)new physical education teachers have been adjusting gap between ideal and reality.(2)They tried to think variously, and to satisfy the demand of the student and the guardian. (3)They were sorting out feelings.

研究分野：身体教育学

科研費の分科・細目：体育科教育学

キーワード：新任体育教師 心的成長プロセス

1. 研究開始当初の背景

近年、児童・生徒の学力低下や体力低下、コミュニケーションスキルの低下など学校教育が、社会から求められる課題は多種多様である。そのような学校現場において、体育は、スポーツを通し、人間関係を学習することのできる教科である。また、他の教科と比べ身体的活動が格段に増えるため、生徒間あるいは教師との間においても肉体的・心的距離が近くなる。そのため他の授業内では見えにくい生徒の実態がより顕在化されやすくなる。その一方で、特に新任の体育教師は、生徒指導を担うことも多く、体育授業以外でも保護者や地域住民から様々なことを要求されることが少なくない。したがって、新任の体育教師は、生徒が抱える問題や課題の解決に向けた体育授業や生徒指導にくわえ、保護者や地域住民からの要求に答えなければならぬ。

もっとも、これまでの教師教育に関する研究がされていなかったわけではない。これまでの多くは、量的手法を用いた仮説検証型によるものであり、授業を形成する要因や指導形態などを外的な事象を独立変数として扱っていた。そのため、実際の教育現場で起こる様々な事象に対して、新任の体育教師がどのような視点で生徒を観察し、それをどのように意味づけ解釈して、体育授業や生徒指導などの相互作用に付与しているのかといった、葛藤から昇華までの心的成長プロセスは十分に明らかとなっていないと考えられる。

このような視点から、個の認識や人間関係性の変化プロセスを扱う場合においては、1つ1つの事例を吸い上げ、全体をまとめていく仮説生成型が、適していると考えられる。また、仮説を生成するうえで、インタビュー形式による手法は欠かせない。

インタビュー形式による質的研究の手法は、現象を上手く言い当て、構造化することに適している。更に、研究者の関心に応じて、対象者を観察したり、分析したり、解釈したりするのに体系化されたツールであるとされている(西條、2007)。特に、Grounded Theory Approach (以下、GTA) は、社会や他者との相互の関わりの中で、自己の経験をどのように意味づけるのか、複数のカテゴリーによって、包括的に捉えようとするものである。現象の構造とそのプロセスを捉えることにより、ある状況からことなる状況に変化するプロセスを多様な視点から把握しようとするものであるとされている(戈木、2007)。

GTAには幾つかの手法があるが、共通する基本手続きは、(1)データの収集、(2)概念構成、(3)理論的サンプリングと継続的比較分析、(4)理論的

飽和による仮説生成とされており、個人にとっての意味づけを取り扱えることが、最大の利点であることが、原田(2003)、水野(2004)によって指摘されている。

このように、本研究では、個人にとっての意味づけや解釈を構造的に取り扱えることのできるGTAを活用し、本研究を遂行することとした。

2. 研究の目的

本研究では、「新任の体育教師はどのように成長していくのか」という Research Question (以下、RQと略す)のもと、その心的成長プロセスについて、発展継承可能な仮説的知見を導き出し、教育現場において有効に機能するモデルを構築することを目的とした。

3. 研究の方法及び調査対象

「新任の体育教師はどのように成長していくのか」というRQのもと、GTAによる発展継承可能な仮説的知見を質的に導き出し、その目的達成のため、以下の3点の研究課題を設けた。

研究課題1として、新任体育教師の授業や教育に関する概念枠組設計のための予備的検討を行った。研究課題2では、新任体育教師を対象に集中的な半構造化インタビュー調査を実施した。研究課題3では、新任体育教師の心的成長プロセスの構造化及び成果発表とした。

なお、初任者を設定するうえで、吉崎(1998)及び、Berliner(1988)の教師の授業力量の成長・発達モデルを参考にした。

Berliner(1988)は、教師の授業力量の発達を5段階に設定している。そこでは、第一段階を初任者前期、第二段階を初任者後期、第三段階を中堅前期、第四段階を中堅後期、そして、第五段階を熟練者と設定している。その一方で、吉崎(1998)は、我が国の教師の発達について、初任期を教職3年くらいまでとし、中堅期を5~15年目くらいまでとし、熟練気を20年目以降と3段階に設定している。

よって、本研究では、我が国の教師の発達段階を示した吉崎(1998)に従い、採用試験に合格して3年目くらいまでの保健体育教師を初任者と設定した。また、その際、男女比を考慮するために、女性の新規採用が比較的多い、中学校教員を対象とした。

この調査対象となる、インフォーマット(情報提供者)の選出においては、近畿圏内の中学校に所属する新任の保健体育教師とした。インフォーマットについては、カテゴリーの精緻化を図るために、予備調査を行い、その後、男2名、女子3名を本調査の対象者として選出した。

インタビュー調査を行うに当たって、イン

タビューマニュアルの作成、予備調査を実施した後、本調査を行った。本調査では、インタビューマニュアルをもとに、1人あたり50～80分程度のインタビューを実施した。また、インタビューを行う際には、協力者の同意を得ること、研究の目的、面接の目的について説明し、記録の承諾を得た。本研究によって得られたデータは、研究以外の目的で使用しないこと、個人情報の保護を厳守すること、インタビュー項目に関し、インフォーマットが疑問に思ったり、不都合が生じた場合には、速やかに申し出てもらうことを伝えた。

4. 研究成果

研究課題1では、先行研究の整理精選を行った。質的研究の中で、特に、代表的な研究方法であるGTAによる研究を中心に関連する文献の収集ならびに整理を行った。収集・整理した文献をもとにインタビューマニュアルを作成した。なお、インタビュー調査の実施にあたり、フェイスシートを作成し、インタビューマニュアル及びフェイスシートの検討を行った。

具体的には、インタビュー・マニュアルでは、(1)インタビュー前の説明、(2)質問リスト、(3)インタビュー後の説明、(4)謝礼の確認、を行った。フェイスシートでは、(1)実施日、(2)実施時間、(3)調査実施場所、(4)氏名、(5)年齢および性別、(6)出身大学及び学部、(7)教職経験年数、(8)講師経験の有無、(9)校種及び学校形態(勤務先)、(10)クラス担当学年、(11)保健体育授業の対象学年及び対象の性別、の内容から構成した。その際、(6)出身大学及び学部に関しては、追質問として、学生時代における保健体育の模擬授業の有無、学内あるいは学外の指導やボランティアの経験の有無を付した。

これらのインタビュー調査マニュアルに従って、形式のある「語り」の予備調査を実施した。

研究課題2では、心的成長プロセスに関し、半構造化による個別のインタビュー調査を行った。その際、近畿圏内の中学校に勤務していた新規採用から5年以内の新任体育教師を対象とした。本研究では、新任体育教師は、男性2名と女性3名から構成されており、5名に対し、研究課題1で作成したインタビューマニュアル及びフェイスシートを使用した。また、いずれの教員も各学期終了時にインタビューを施した。その際、1名の教員は、2セメスター制度を適用している校区に勤務していたため、他の4名と同様の時期にインタビュー調査を実施した。

研究課題3では、逐語記録で得られたデータから、教育現場で起こる事象をどのように解釈し昇華されていくのか、概念やカテゴリーを生成した。人間形成や変容プロセスなど、心的成長プロセスのカテゴリーを精緻化し、その関連を仮説的に導き出した。

その結果、本研究では、新任体育教師は、初期の段階では理想と現実のギャップに気づき、初任者研修会での同期の仲間たちや学校現場の他の教員との関わりの中から、そのギャップを調整していた。

中盤の段階では、学校内での自身の立場や生徒、保護者、更には地域住民から求められていることに応えるために、試行錯誤を繰り返していた。具体的には、指導と評価を一体とするための観点から、体育授業の在り方を再検討したり、部活指導の結果として大きな大会に出ること、また、地域と学校が一体となる指導の在り方など、様々な視点から試行錯誤を繰り返していた。

最終の段階では、指導力の向上や生徒との関係の向上などから次学年に向け、気持ちの整理を図るといった心的成長プロセスを経ていた、という知見を導き出した。

特に、本研究をまとめるにあたり、1年間通し、インタビュー調査を行った。これにより、新任体育教師は、ギャップの調整、試行錯誤、指導力の更なる向上と調整を図る、という側面が強調され、そこには心理的な成長のプロセスをみることができ、興味深い知見を得ることができた。

なお、これらで得られた研究成果の一部は、国内(日本体育学会第64回大会、於：立命館大学)及び国際学会(The Japanese society of Sport Education conference 2013, Nihon University)で発表されるとともに、学校教育現場に向け(体づくり運動の特性をおさせ、活気ある体育学習を進めるポイントを考える、第57回全国小学校体育科教育研究集会神戸大会、於：神戸市立)講演を行った。更には、校内研修会(茨木市立茨木小学校、茨木市立畑田小学校、茨木市立水尾小学校)あるいは、校外研修会(京都市中学校教育研究会体育部会の夏季保健体育研修講座)などにおいても、研究成果の一部を公表し、体育授業や教員の指導力向上に向けた講演を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

南島永衣子(2012)スポーツ開発・支援センター事業報告書「びわスポキッズプログラム キッズリーダー研修会」.びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ開発・支援センター年報(9)20.

南島永衣子(2012)スポーツ開発・支援センター事業報告書「雄琴幼稚園親子ふれ合い運動」.びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ開発・支援センター年報(9)46.

南島永衣子(2012)小学校体育実践研究第14号「第54回全国小学校体育科教育研究集会・横浜大会特集」全国小学校体育研究連盟・編. pp.71-72.

南島永衣子(2011) 体育教師について - 教師教育の視点から - . アカデミックアワー研究報告. びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第8号 . pp.165-166.

〔学会発表〕(計 8 件)

Eiko MINAMISHIMA・Satoshi OTOMO・Akemi UMEGAKI・Naoya FUKUDA(2013)Changes of the viewpoint of Japanese elementary school P.E in cumulative guidance record. The Japanese society of Sport Education conference 2013 (IN:Nihon University).

南島永衣子・大友智・梅垣明美・深田直宏(2013) 小学校体育科を中心とした指導要録の機能および評価の観点の検討. 日本体育学会第64回大会 (於:立命館大学 BKC).

梅垣明美・大友智・南島永衣子・深田直宏(2013) 体育における社会的行動に関わる知識の学習について. 日本体育学会第64回大会 (於:立命館大学 BKC).

深田直宏・大友智・吉井健人・梅垣明美・南島永衣子(2013) 小学校体育授業における高学年児童に学習可能なタグラグビーの技術の検討. 日本体育学会第64回大会 (於:立命館大学).

増田一太・大友智・深田直宏・梅垣明美・南島永衣子・塩澤成弘(2013) 小中学生の体育座り・椅座位時腰痛の実態調査. 日本体育学会第64回大会 (於:立命館大学 BKC).

南島永衣子・大友智(2012) 体育科における戦後の教育評価に関する分析. 日本体育学会第63回大会 (於:東海大学湘南キャンパス).

南島永衣子・大友智(2012) 体育科における態度に関する検討:学習指導要領における内容と評価規準における観点から. 第16回体育授業研究会 愛媛大会.

南島永衣子・大友智(2012) 体育科における態度に関する検討:学習指導要領における内容と評価規準における観点から. 第141回京都体育学会 (於:びわこ成蹊スポーツ大学).

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

講演(研究協力、助言者他)

南島永衣子(2013)「体づくり運動」の特性をおさせ、活気ある体育学習を進めるポイントを考える. 第57回全国小学校体育科教育研究会・神戸大会 (於:神戸市立湊翔南中学校等).

南島永衣子(2012) 第22回近畿小学校体育研究会 滋賀大会 ゲーム・ボール運動領域分科会研究協力者(守山市立河西小学校、守山市立吉身小学校).

南島永衣子(2011) 系統的な指導計画の組み立てと運動好きな児童を育む体育学習の在り方. 第55回全国小学校体育科教育研究会・東広島大会 (於:東広島市立西条小学校等).

公開研修会講師

南島永衣子(2013) 茨木市教育研究会小学校保健体育部主催 研究授業講師 (於:茨木市立茨木小学校)

南島永衣子(2013) 茨木市教育研究会小学校保健体育部主催 研究授業講師 (於:茨木市立水尾小学校)

校内研修会講師

南島永衣子(2013) 茨木市立畑田小学校主催 研究授業講師 (於:茨木市立畑田小学校)

校外研修会

南島永衣子(2013) 京都市中学校教育研究会体育部会主催 (中・総) 夏季保健体育研修講座 (於:花背山の家)

その他研修会

南島永衣子(2011) 大津市教育委員会(学校保健体育課)主催 「子どもの体力向上にむけて～発達段階に応じた動きづくり～」 (於:大津市役所内別館大会議室)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

南島永衣子(MINAMISHIMA, Eiko)

びわこ成蹊スポーツ大学・スポーツ学部・専任講師

研究者番号: 70455062

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: